



怖い虫さされにご用心！

☀️ 夏は虫さされの危険がいっぱいです。
蚊や虫蜂など、ご存知のものも省略して、それ以外の注意すべき虫と
対処法をご紹介します。



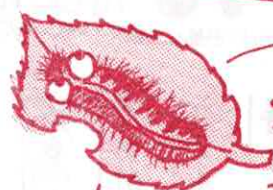
マダニ

2~3mmの大きさ

家の中にいるダニとは別の種類で、草むらにいて、そこを通る動物にとびつき吸血します。吸血中は痛みもかゆみもなく、気づきにくいので注意が必要です。

「マダニ」は、セメントのような物質を出して、口器を固着させるので、なかなか離れず無理に取ると口器が残り、炎症がひどくなる場合があります。
ピンセットなどで口器が残らないよう、ていねいに取りましょう。
山に限らず、近所でも草むらを歩く時には、長袖・長ズボンを着用する事に
心掛け、帰宅後は、すぐに体を洗いましょう。(とびついてすぐのマダニは、すぐには吸血しません。)

マダニが怖いのは、「SFTS」と呼ばれるウイルス感染症を媒介することで、毎年死亡例の報告があるほどです。刺されて1~2週間、原因不明の発熱や嘔吐・下痢などがありましたら、すぐに病院へ行きましょう。



毛虫

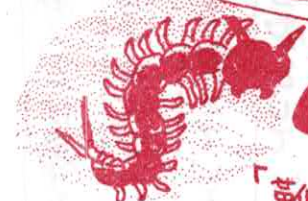
毛虫でかゆくなるのは、ほとんどが「ヤドリガ」の幼虫です。
椿や、サザンカの葉に卵を産み、発生し、毛虫には直接触れなくても、近くを通るだけで、危険を察知して、0.1mmほどの毒針毛を空中に大量発射します。毒針毛がつくと、少し遅れて強い痛みや、小さな赤い斑点が出ます。

「毛虫かな?」と思ったら、まず水で毒針毛を洗い流し、その後、ガムテープを貼ってはがすをくり返し、残った毒針毛を取り除きます。そして、更に石けんを使って洗い流します。
最後にステロイド配合のかゆみ止めを塗ります。



イロガ

サクラ・カエデ・柿の葉の裏にイロガの幼虫が大量発生することがあります。毒液を含んだ刺毛を持ち、触れると同時に激痛が走ります。
対処法は流水やガムテープなど毛虫の時とほとんど同じですが、こすり、押さえつくと刺毛から毒素が更に出てくるので注意しましょう。その後、ステロイド含有軟膏を塗ります。
痛みは...
2時間ほどで楽になるようです。



ムカデ

昼は石や落ち葉の湿った所にひそんでいますが、夜になると食べ物(ゴキブリやクモが好物)を探して移動します。

「靴をはく時に刺された!」という話をよく聞きますので、好きな場所かもしれませんね?!
刺されると毒牙から、注入された毒で、激痛と共に赤く腫れ上がります。
ムカデの毒は、熱に弱いので、刺された直後は水で冷やすより、42~43℃のお湯を10~20分かけ続けるといいそうです。その後、ステロイド配合の軟膏を塗ります。なお、刺されて、数時間経過すると毒の酵素活性が高まるので、温めるのは逆効果になります。
ご注意ください!